

(電子メール施行)
農技第 1565 号
令和4年9月15日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

令和4年度病害虫発生予報第5号を發表します。

令和4年度病害虫発生予報 第5号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	トビイロウンカ	平年並	やや少
	斑点米カメムシ類	やや多	平年並
ダイズ	紫斑病	平年並	やや少
	立枯性病害	やや多	平年並
	べと病	やや多	やや多
	葉焼病	やや多	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
	吸実性カメムシ類	やや多	平年並
野菜共通	ハイマダラノメイガ	やや多	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
	シロイチモジヨトウ	多	多
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	平年並

* 気象の概況

近畿地方 1 か月予報
(9月10日から10月9日までの天候見通し)

令和4年9月8日
大阪管区気象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1 か月予報 (09/10~10/09)		
2022年09月08日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 09/10~10/09	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
1週目 09/10~09/16	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 09/17~09/23	気温	2週目は、高い確率60%です。
3~4週目 09/24~10/07	気温	3~4週目は、高い確率50%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 09/10~10/09	
		1週目 09/10~09/16	
		2週目 09/17~09/23	
		3~4週目 09/24~10/07	
降水量	近畿太平洋側	向こう1か月 09/10~10/09	
	近畿日本海側	向こう1か月 09/10~10/09	
日照時間	近畿太平洋側	向こう1か月 09/10~10/09	
	近畿日本海側	向こう1か月 09/10~10/09	

■ 低い(少ない) ■ 平常並 ■ 高い(多い)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 県下3か所に設置している予察灯のうち、朝来市（北部農技内）で8月5半旬（8月23日）に誘殺が確認されている。また、8月下旬の関係機関による調査では一部地域で圃場での発生が確認されている。
 - イ 9月に入り、県南部地域においては、5月下旬～6月上旬の飛び込みによるとみられるごく一部の圃場で坪枯れの発生が認められている。
 - ウ 無防除や苗箱処理剤のみの圃場では、坪枯れが発生するおそれがあるので注意する。
 - エ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖が助長されるおそれがある。
- (3) 防除上の留意点
- ア 既に発生が確認されている圃場、近隣に坪枯れが認められている圃場においては、発生状況に応じた防除対策を行う。特に、普通期栽培品種では、収穫が10月上旬以降となるため、発生状況を確認することが望ましい。
 - イ 本種は同じ圃場内でも局所的に発生する傾向がある。発生状況の確認にあたっては、少なくとも3カ所（計100株）以上を調査し、圃場全体の発生状況を把握する。雌成虫及び幼虫は株元にいるので、株をかき分けての目視調査も有効である。成虫・幼虫の合計が株あたり5頭を超えて、かつ収穫まで1か月以上ある場合は、速やかに薬剤防除を実施する。
 - ウ 薬剤散布にあたって、粉剤や液剤は本種が生息する株元まで十分届くように散布する。粒剤は処理後の湛水状態を少なくとも数日間保つようにする。
 - エ 収穫期に近い時期の薬剤散布となるので、特に使用する薬剤の収穫前日数をよく確認する。防除薬剤は農薬使用基準を遵守すること (<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

2 【斑点米カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量： やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 県下3か所に設置している予察灯のうち、朝来市（北部農技内）におけるカスミカメムシ類の8月の合計誘殺数は、145.3頭（平年値690.3頭）であった。一方、イネカメムシは朝来市における同時期の合計誘殺数は43.2頭（同9.9頭）と7月以降誘殺が多い状態が続いている。
 - イ 8月下旬の圃場調査では、上記のカメムシ類に加えて、ミナミアオカメムシの発生も確認されている。
 - ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、斑点米カ

メムシ類の増殖に好適な条件となるため、発生はやや多くなると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<https://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/hyogo>)。

イ イネカメムシの対策については、令和4年度病害虫発生予察防除情報第4号(令和4年7月29日付)に記載しているため、合わせて参考にして下さい(HPに掲載)。

ダイズ

1 【紫斑病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の圃場(加西市)では発生が確認されていないが、現地圃場で僅かながら発生が認められている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は多いと予想されている。本病は降雨により発病が助長されるため、平年並の発生になると考えられる。

2 【立枯性病害】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の現地圃場では発病株率0.4%(平年値0.6%)、発生圃場率25.0%(同24.4%)と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は多いと予想されている。本病は圃場の土壌水分が高くなることで発病が助長されるため、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 本病は圃場の排水不良で助長されるため、圃場の排水対策を十分に行う。

イ 被害株は、次年度以降の感染源になるため、圃場外に持ち出し適切に処分する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<https://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/hyogo>)。

3 【べと病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の現地圃場では発病株率16.7%(平年値2.8%)、発生圃場率16.7%(同12.4%)とやや多い発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並~多いと予想されている。本病は降雨により発病が助長されるため、やや多い発生で推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 圃場を観察し、発病初期からの薬剤防除を徹底する。
- イ 被害茎葉は、次年度以降の感染源になるため、圃場外に持ち出し適切に処分する。本病の防除対策の詳細については、令和4年度病害虫発生予察防除情報第5号(令和4年9月7日付)に記載しているので、参考にして下さい(HPに掲載)。
- ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

4 【葉焼病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠

- ア 8月下旬の現地圃場では、発生圃場率は29.2% (平年値15.6%)であった。9月上旬の場内圃場(加西市)では発生は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されている。本病は高温性の病害であるため、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 被害茎葉は、次年度以降の感染源になるため、圃場外に持ち出し適切に処分する。
- イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

5 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠

- ア 8月下旬の現地調査では、白変葉が0.3カ所/a(平年値0.2カ所/a)、地点率20.8%(同16.3%)と平年並の発生が確認されている。9月上旬の場内圃場(加西市)では、中齢幼虫が25株あたり1頭(平年値0.9頭)の発生であった。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件であることに加えて、季節的にも発生最盛期を迎えることから、発生はやや多くなると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 卵塊や集団にいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。
- イ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢期の防除を徹底する。
- ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

6 【吸実性カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠

ア 場内圃場（加西市）では発生は確認されていないが、8月下旬の現地圃場では10株あたりの虫数は0.4頭（平年値0.4頭）、発生圃場率25.0%（平年値23.4%）と平年並の発生であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、カメムシ類の活動が活発になり、発生はやや多くなると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、卵からふ化した幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続けるため、薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】（アブラナ科野菜）

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 加西市（農技センター内）で実施している誘致植物^{※1}（クレオメ）での調査では、8月下旬の寄生花枝率^{※2}は32.1%（平年値31.0%）であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くことから、発生はやや多くなると考えられる。

※1 対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調べるために用いられる。

※2 クレオメは頂部に花が咲く分枝（花枝）を連続して展開する。ハイマダラノメイガの発生予察では、この花枝を調査単位としている。

(3) 防除上の留意点

ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。

イ 発生盛期である9月下旬頃までに育苗や播種・定植をする場合は、本種による加害が起こることを前提とした防除に努める。

ウ 幼虫が生長点を加害するため被害が大きく、被害を確認してからの防除では手遅れとなるため、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。

エ 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の被害発生に注意する。天候等の条件により期待した防除効果が得られないこともあるので、本圃での薬剤防除の準備をしておくことが望ましい。

オ 本種の防除対策の詳細については、令和4年度病害虫発生予察注意報第2号（令和4年8月12日付）に記載されているので、参考にして下さい（HPに掲載）。

カ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月1半旬～9月1半旬までのフェロモントラップの合計誘殺数は、加西市（農

技センター内)で861.2頭(平年値835.7頭)、南あわじ市(淡路農技内)で183.4頭(同209.5頭)であった。

イ 本種はこれから発生最盛期を迎えることに加え、今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件になることから、今後定植する野菜類での発生に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。

イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢期の防除を徹底する。

エ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

3 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：多

(2) 予報の根拠

ア 本種については、令和4年度病害虫発生予察注意報第3号(令和4年8月19日付、HPに掲載)を発生したところであるが、8月1半旬～9月1半旬までのフェロモントラップの合計誘殺数は、加西市(農技センター内)で393.5頭(平年値103.7頭)、南あわじ市(淡路農技内)で1476.2頭(同507.8頭)であり、平年より多い状態で推移している。また、生産現場では、一部の野菜・花卉類で引き続き幼虫の発生が認められている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件になるため、今後も野菜類全般での被害の発生に、継続して注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 本種の加害植物は、ネギをはじめキャベツ、ピーマン、ナス、レタス等多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

果樹共通

1 【果樹カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は表年(発生の多い年)に該当する。8月の予察灯(チャバネアオカメムシ)の合計誘殺数は、加西市(農技センター内)で13.8頭(表年平均9.6頭)、

朝来市（北部農技内）で348.5頭（同616.4頭）、南あわじ市（淡路農技内）で8.5頭（同11.3頭）とほぼ平年並の誘殺が確認されている。

イ 現況としては、令和4年度病害虫発生予察注意報第1号（令和4年8月12日付、HPに掲載）発出時の多発状況は収まっているが、今後1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件になり、成虫の活動が続くことから、これから収穫を迎えるカキ、カンキツ等の果実の被害の発生に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 発生状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること（<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>）。合わせて、防除対策の詳細については、前記の令和4年度病害虫発生予察注意報第1号に記載されているので、参考にして下さい（HPに掲載）。

*** この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載**
[\(http://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/\)](http://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/)

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」Twitterを開設しました！
発生予察情報など病害虫に関する情報を提供しますので、是非フォローお願いします。
Twitterアカウント(http://twitter.com/hyogo_boujoshou)

